

ドローンで水田の農薬散布を効率化

農家さん：阿部 正樹さん〈荒井〉

導入機器：農薬散布ドローン（株式会社DJI製 T-10）

栽培品目：水稲

〈ポイント〉

- ＊ドローンで大規模水田の農薬散布効率化
- ＊2人ペアで安全に操縦
- ＊市内水稲農家の作業代行も担う

―導入しているスマート農機具について教えてください。

阿部正樹さん 令和4年4月にドローンの免許を取得し、農薬散布で活用しています。オペレーター（操縦）とナビゲーター（誘導）のペアでインカム（イヤホンとマイク）を付けて、随時、状況を確認しながら作業しています。オペレーターはドローンの操縦に集中していますし、目視で距離感をつかみづらい場合もあるので、障害物や車、歩行者の有無など、ほ場の周りの状況を逐一伝えてくれるナビゲーターの役割は大きいです。安全第一で作業しています。



農薬散布にドローンを活用する阿部さん



目的、ほ場にあった農薬を補充

―稲作ではどのような作業でドローンを使いますか。

阿部さん 6月の中期除草をはじめ、その時々で薬が足りていない場所をスポット的に散布しています。穂が実ってから、カメムシの防除で使うこともあります。雑草の種類によって散布する農薬も違うので、ほ場ごとに薬剤を変えて散布しています。粒剤の散布は30aの田んぼで、5分程度で終わります。

―農薬散布の代行もされていると伺いました。

阿部さん 3件の農家さんの農薬散布を代行しています。兼業農家であったり、多品目栽培の方など、労力・時間の削減を目的に依頼があります。比較的規模が大きく、整備済みの田んぼであればドローンで効率的に散布ができます。逆に小さくて障害物がある田んぼは、手で散布の方が効率が良いです。



福島市のスクールで講習を受け技能資格を取得

―ドローンが広まるためには。

阿部さん 大豆や他の畑作でもドローンやヘリの活用が広がりつつあります。ドローンの操縦技能や機器の取得にはある程度の経費がかかるので、助成制度を活用できればいいですね。自分のほ場の管理と代行の両立は、難しさもありますが、できることをやっていきたいと思います。